

第69回 定時株主総会

(2018年4月1日～2019年3月31日)

2019年6月25日
東洋合成工業株式会社

 TOYO GOSEI

招集ご通知 10ページ～

**第69期（2018年度）の
事業の経過及びその成果**

対象市場と事業別売上高 招集ご通知11ページ

市場	<p>半導体、フラットパネルディスプレイ向け電子材料</p>	<p>香料 食品、トイレタリー</p>	<p>化学品 ロジスティック</p>
	当社商品	<p>感光材</p>	<p>電子材料 高純度溶剤</p> <p>香料材料</p>
売上高	<p>感光性材料 12,611百万円、54.9%</p>		<p>化成品 10,363百万円、45.1%</p>

- 世界経済 : 米国は良好、欧州・中国は減速感。
米中貿易摩擦、地政学リスク。
- 日本経済 : 緩やかな景気回復が持続。

- 電子材料市場 : 世界景気堅調 + 電子機器普及により需要拡大
2018年秋以降、メモリ市況は減速

情報通信技術の進化・普及・すそ野の広がり

- ・エレクトロニクス製品、車の自動運転等、使用用途の拡大
- ・半導体設計の微細化、三次元化

当社事業への影響

感光材

半導体・ディスプレイ
製造用途

高純度溶剤

半導体・ディスプレイ
製造用途

国内化学品

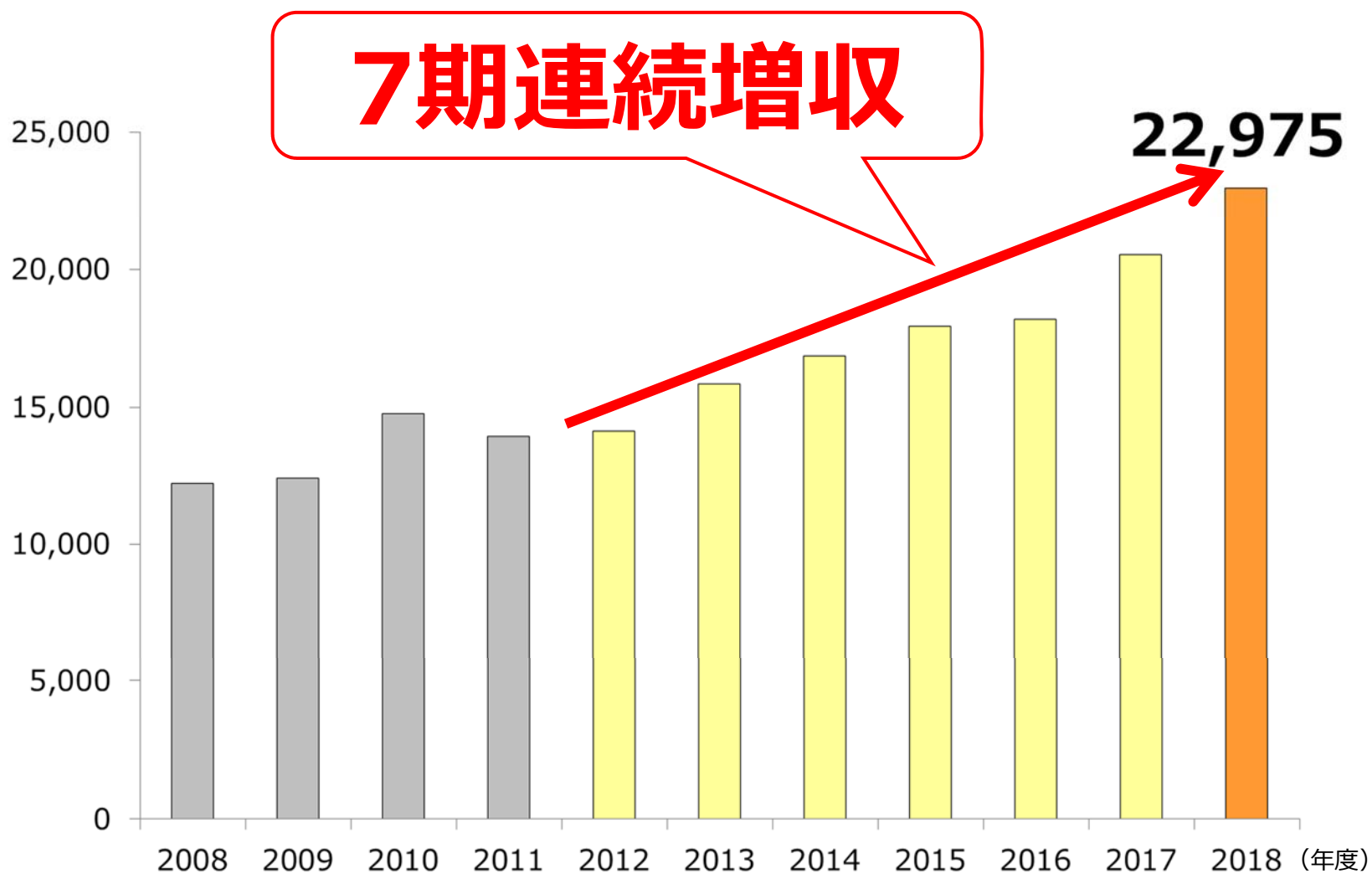
景気拡大
国内化学品需要も増加

2018年度の損益

- 売上高： 229億円、+12% (過去最高)
- 営業利益： 15億円、+20%
- 経常利益： 15億円、+44% (過去最高)
- 当期純利益： 11億円、+36% (過去最高)

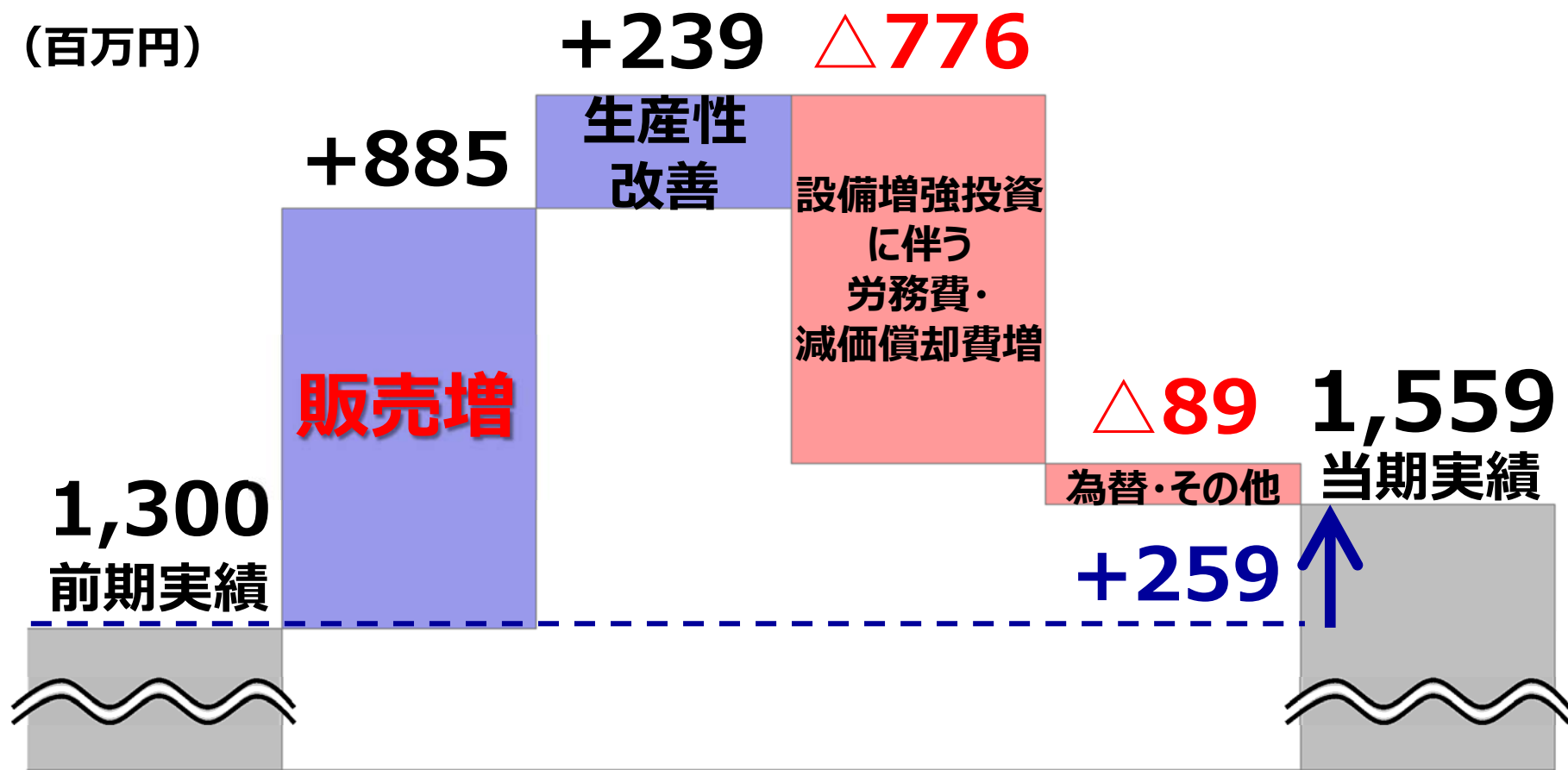
(百万円)	2017年度	2018年度	前年比	
			増減額	増減率
売上高	20,536	22,975	+2,438	+12%
営業利益	1,300	1,559	+258	+20%
経常利益	1,089	1,567	+478	+44%
当期純利益	863	1,171	+307	+36%

●売上高は、7期連続増収



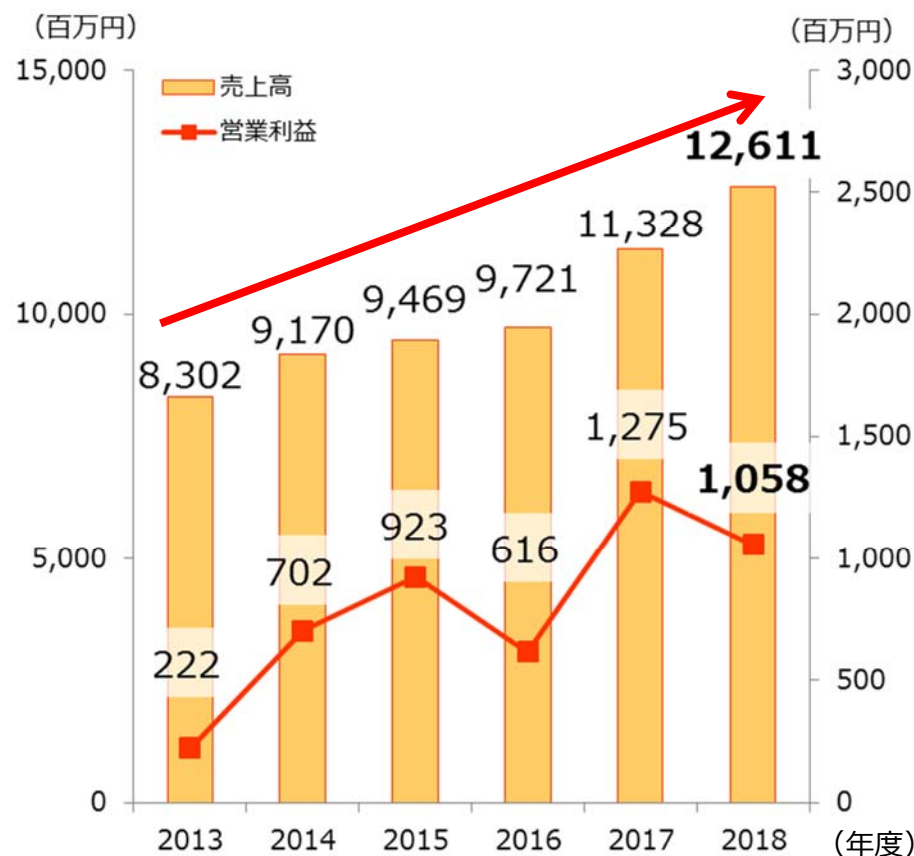
営業利益 増減要因

- 設備投資関連の先行費用増を、販売増で吸収し、増益。



- 半導体、ディスプレイ用途ともに好調。EUV用途の量産開始。
- 既存部分の生産設備能力増強は完了。新製造棟建設に着手

売上高・営業利益



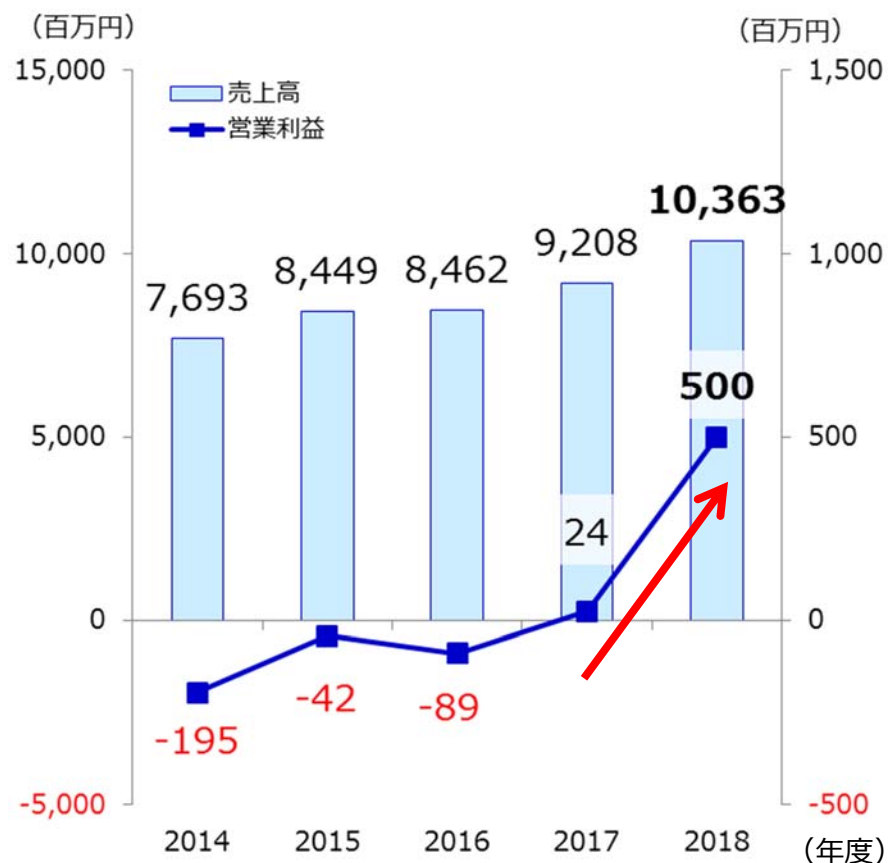
■ **売上高：12,611百万円**
前期比+1,283百万円、+11.3%

■ **営業利益：1,058百万円**
前期比△216百万円

生産能力増強に伴う減価償却費、
人員（労務費）増などの先行費用増
があったものの約2億円減にとどめた。

- 電子材料向け高純度溶剤の需要を取り込み、販売拡大。
- 香料材料は堅調に拡大、ロジスティックは高稼働持続。

売上高・営業利益



■ **売上高：10,363百万円**
前期比+1,155百万円、+12.5%

■ **営業利益：500百万円**
前期比+475百万円、20.1倍

設備増強、付加価値・潜在成長率の高い電子材料分野への注力、需要拡大、生産効率化により、売上・利益ともに大幅増加。

2018年度 損益計算書

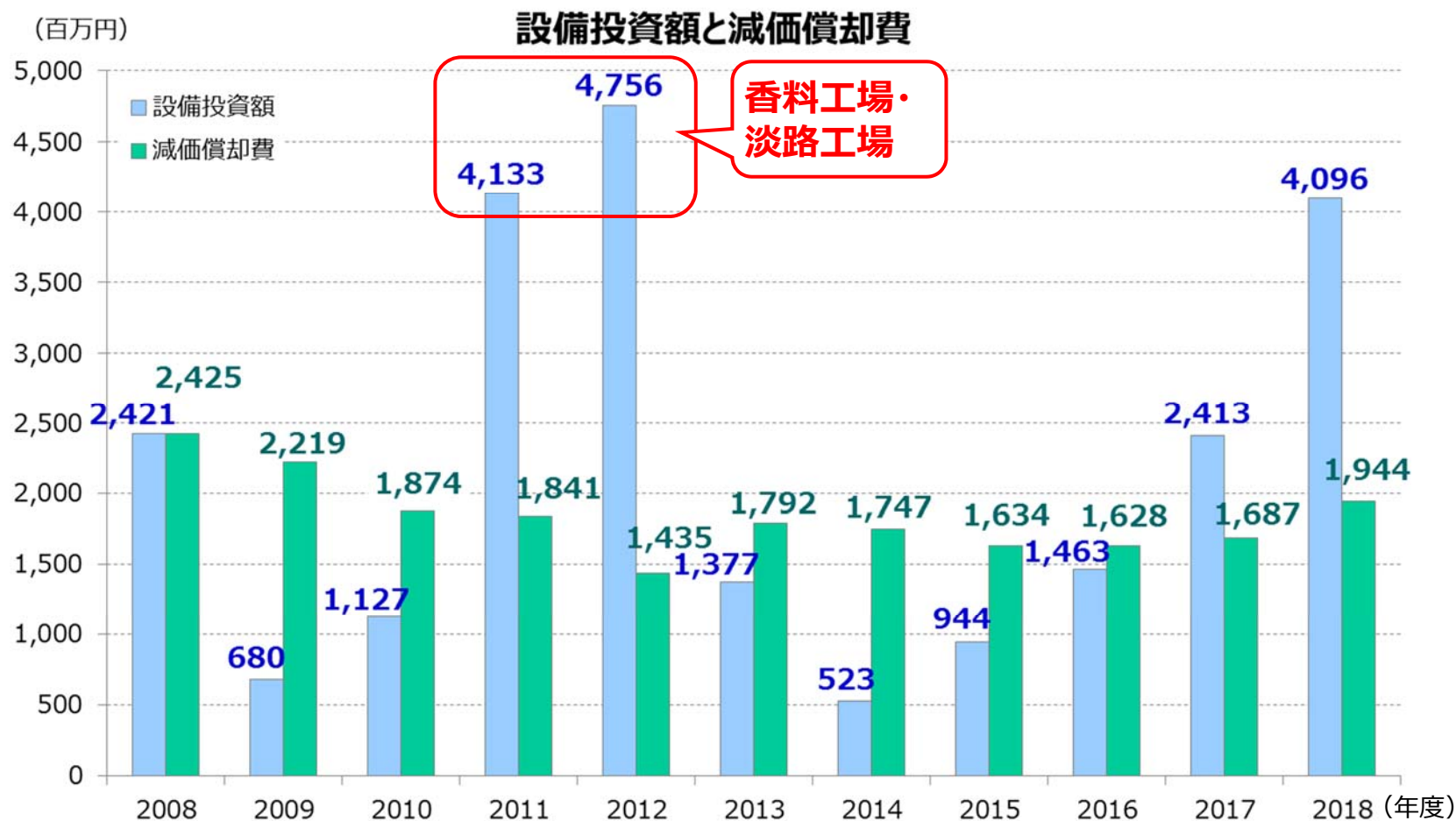
招集ご通知31ページ

- 感光性材料、化成品ともに販売増、過去最高売上を更新。
- 感光材の能力増強に伴う先行費用増を吸収し、増益。

(百万円)	2017年度	2018年度	増減額	増減率	
売上高	20,536	22,975	2,438	11.9%	
売上総利益	4,100	4,536	435	10.6%	
営業利益	1,300	1,559	258	19.9%	
営業外収益	64	162	97	250%	[営業外収益 +97、 営業外費用 △122] 為替差益+33、 受取保険金+47
営業外費用	276	154	△122	△44.2%	
経常利益	1,089	1,567	478	43.9%	
特別損益	114	△56	△171	—	[特別損益 △171] 前期発生 of 固定資産売却益 の発生無し
税引前当期純利益	1,203	1,511	307	25.5%	
当期純利益	863	1,171	307	35.7%	

設備投資額と減価償却費 招集ご通知11ページ

- 感光材の既存設備の能力増強投資により、設備投資額が増加。



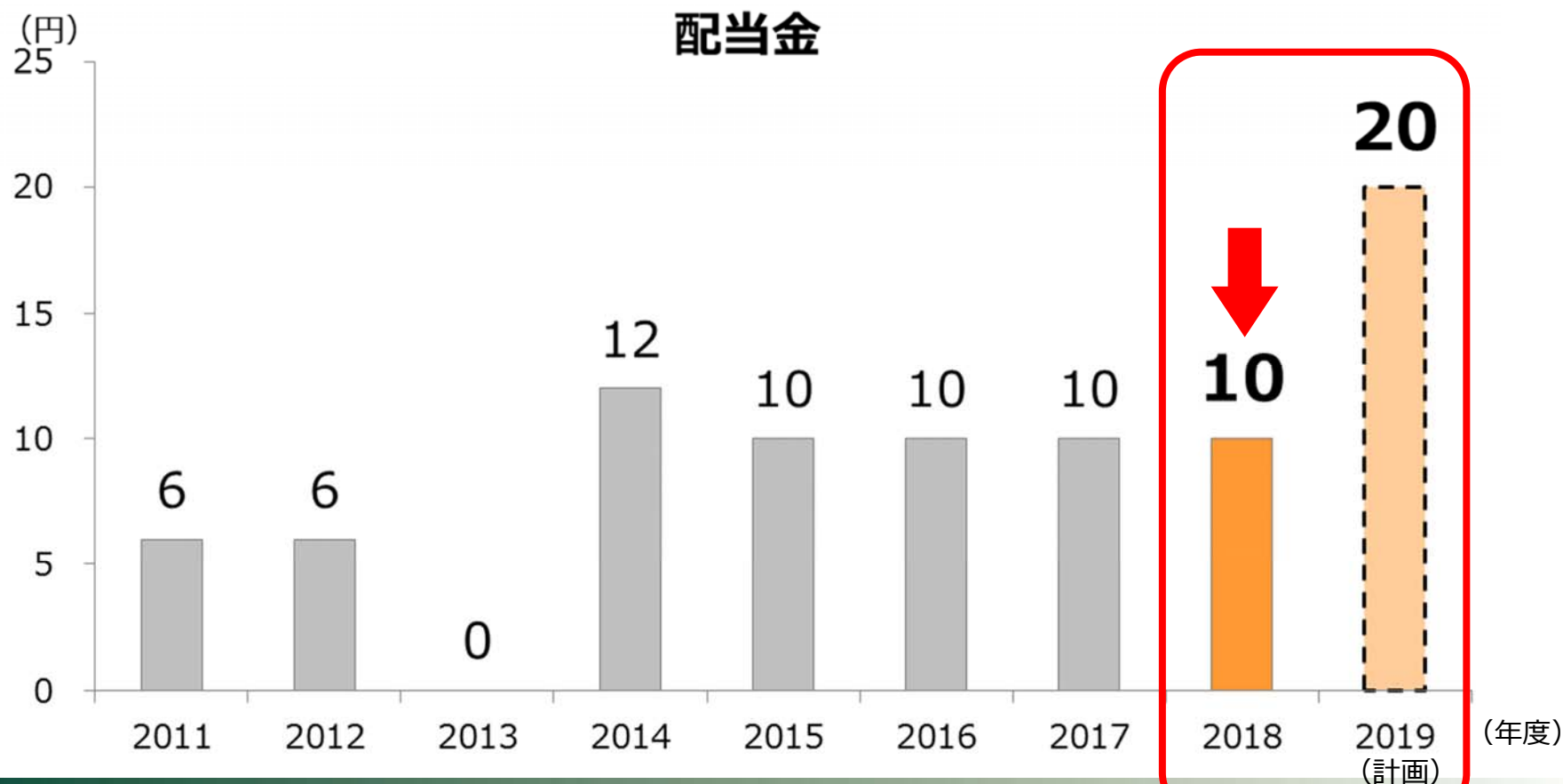
2018年度末 貸借対照表 招集ご通知30ページ

(百万円)	2017年度末	2018年度末	増減額
流動資産	12,617	17,228	4,611
現金預金	2,525	5,412	2,886
売上債権	3,695	4,314	619
棚卸資産	6,108	6,822	713
その他	287	679	391
固定資産	17,511	19,637	2,125
有形固定資産	16,585	18,566	1,981
無形固定資産	331	417	86
投資・その他	595	653	58
資産合計	30,128	36,865	6,737
負債	22,345	28,024	5,679
仕入債務	2,872	3,094	222
有利子負債	14,460	17,984	3,524
その他	5,012	6,945	1,932
純資産	7,783	8,841	1,057
株主資本	7,738	8,830	1,091
負債・純資産合計	30,128	36,865	6,737

■ 売上高増加に伴い、
**運転資金（売上債権、
 棚卸資産）**が増加。

■ **感光材の能力増強投資**
 により、**有形固定資産、
 有利子負債**が増加。

- 株主還元・成長投資・財務体質改善を総合的に勘案し決定
- 2018年度は1株当たり年間10円とさせて頂きました。
- 2019年度の配当は倍増の20円を計画。

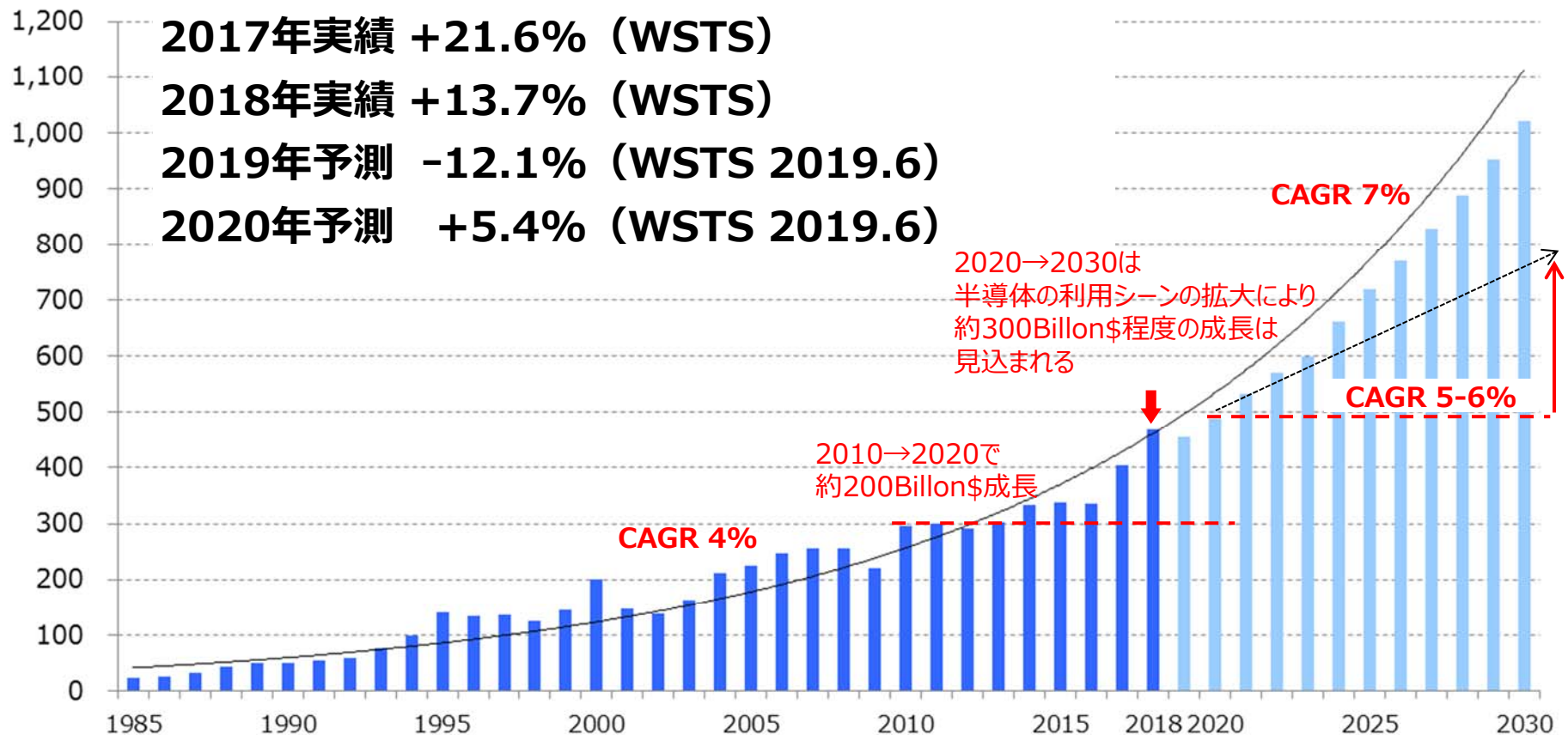


市場環境と対処すべき課題

- 足元は調整局面。回復は今年秋～年末か。
- 回復後を睨んだ**生産能力と品質の向上**。

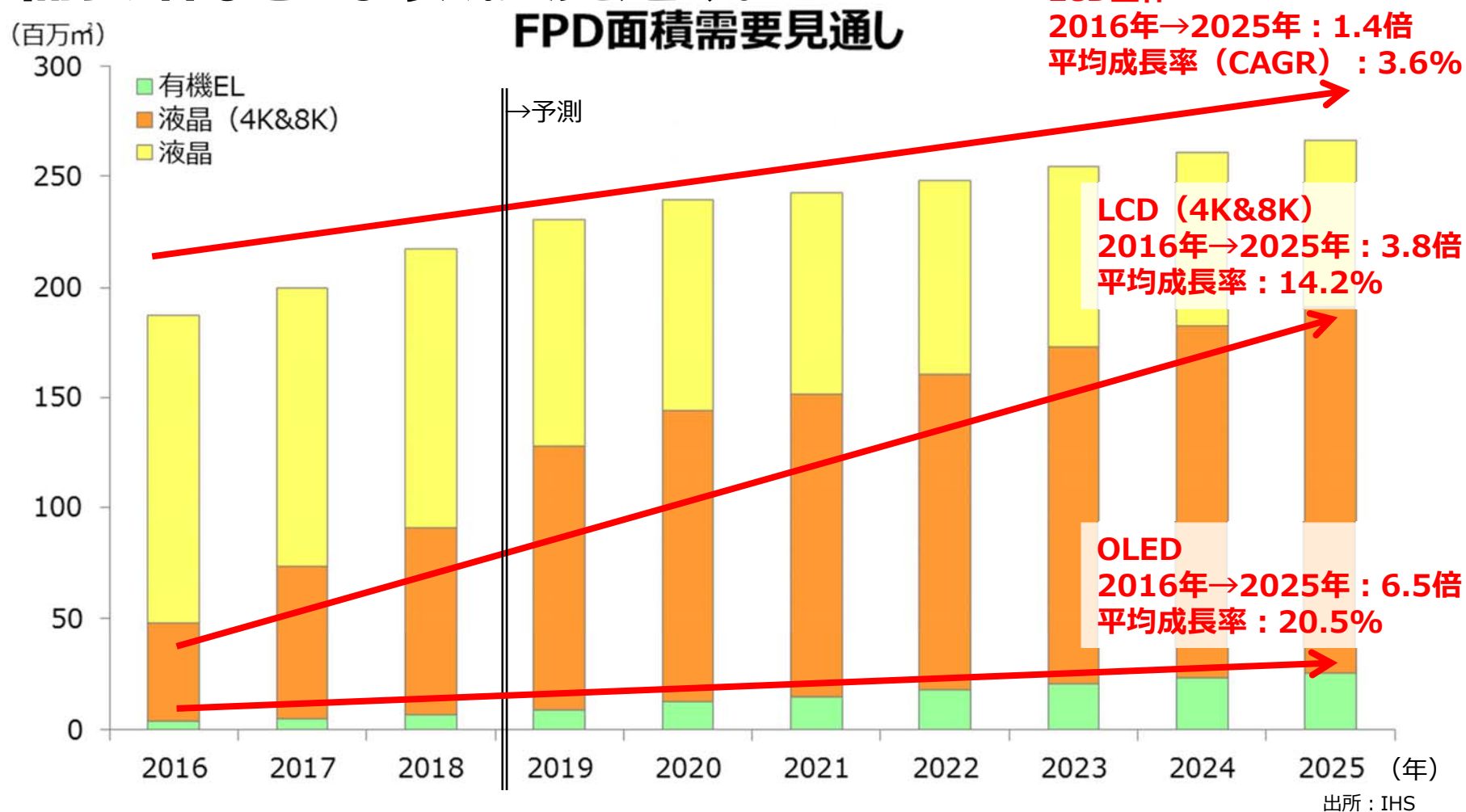
世界半導体売上高

(Billion USD)



出所：WSTS、富士キメラ総研より当社作成 (予測)

- 中国におけるディスプレイ生産能力拡大、大型ディスプレイの需要増などにより成長見込み。



- 高純度溶剤は、フトレジスト用途、半導体製造用途、電子材料製造用途、それぞれで需要拡大。
- 今後の増産に向け、**生産性向上により生産余力を確保。**



香料工場

- 需要堅調な香料材料を中心に、大型ロット生産に対応



市川工場

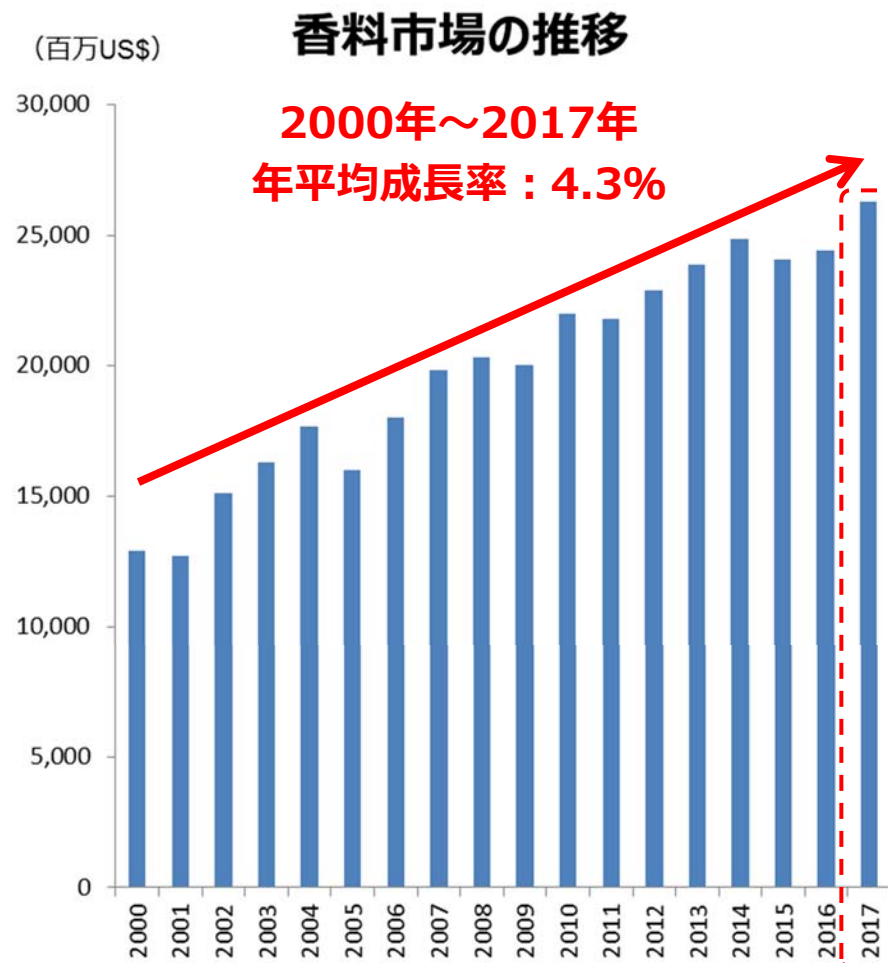
- 化成品のマザー工場
- 電子材料向け溶剤を中心に一部香料材料も生産
- 少量多品種生産に対応



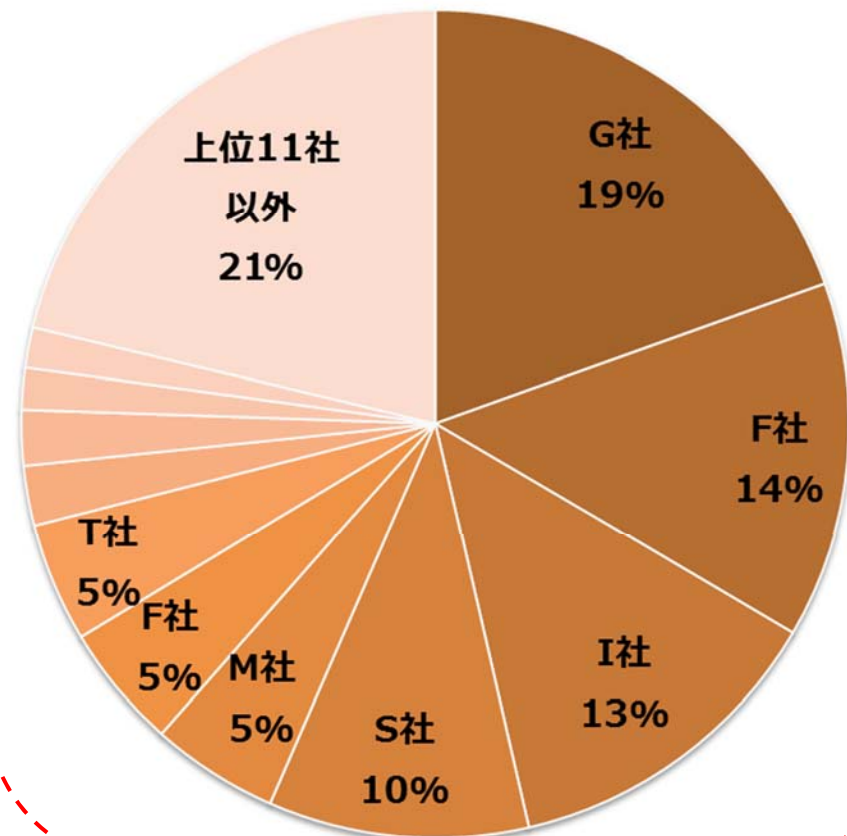
淡路工場

- 化成品の西日本主力工場
- 電子材料向け溶剤を中心に大型ロット生産に対応

- 年平均4.3%成長、今後も同水準の成長が続く
- 世界香料市場は上位7社でシェア約70%



2017年 世界香料市場シェア



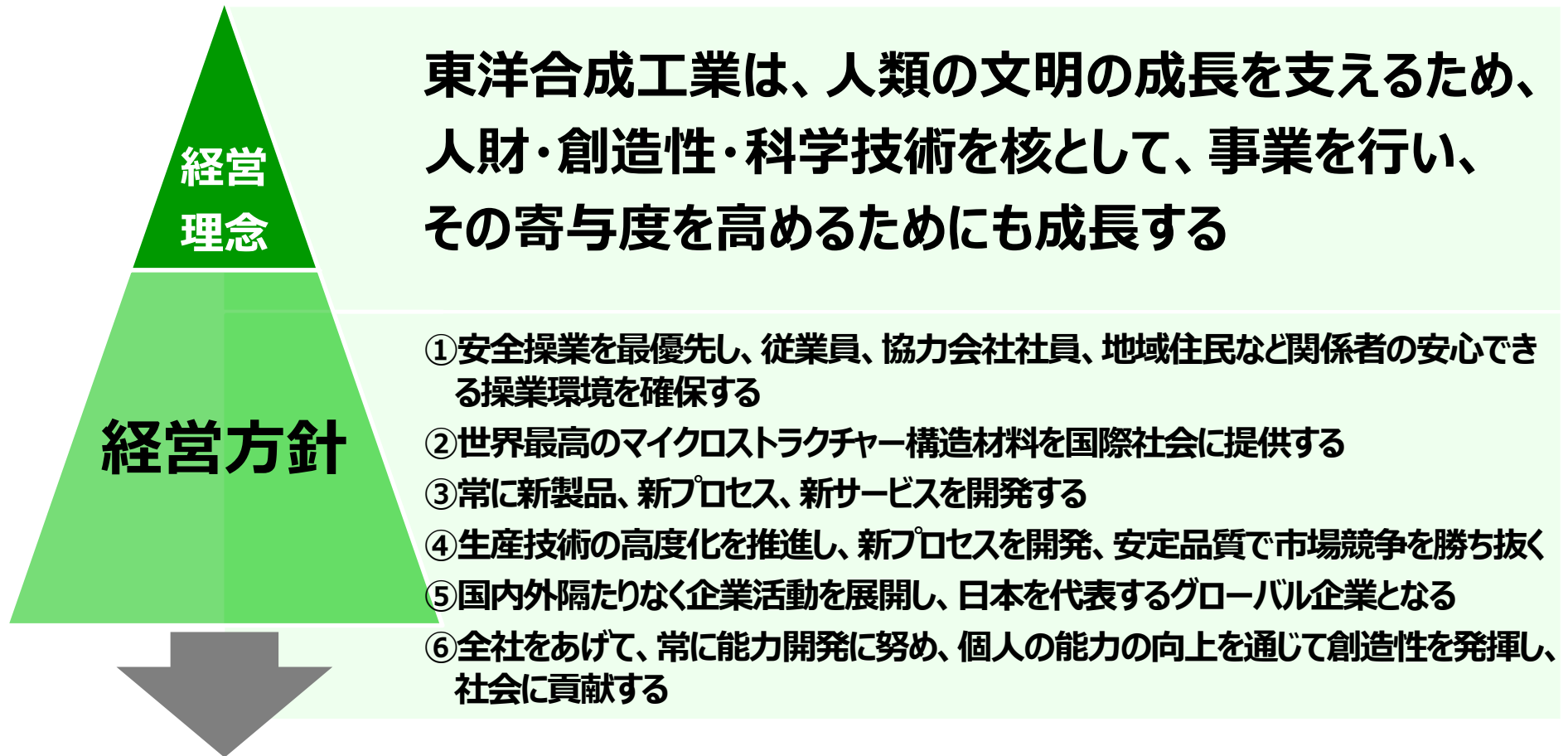
- 高浜油槽所：国内外の液体化学品を関東に配送する化学品物流ターミナル
- 液体化学品タンクターミナルの出荷量は東京湾内最大
- 化学会社メーカーの高い運営品質と抜群の立地による、**高い稼働率**が特徴



招集ご通知 23～25ページ

中長期的な経営戦略

中期経営計画「TGC300」

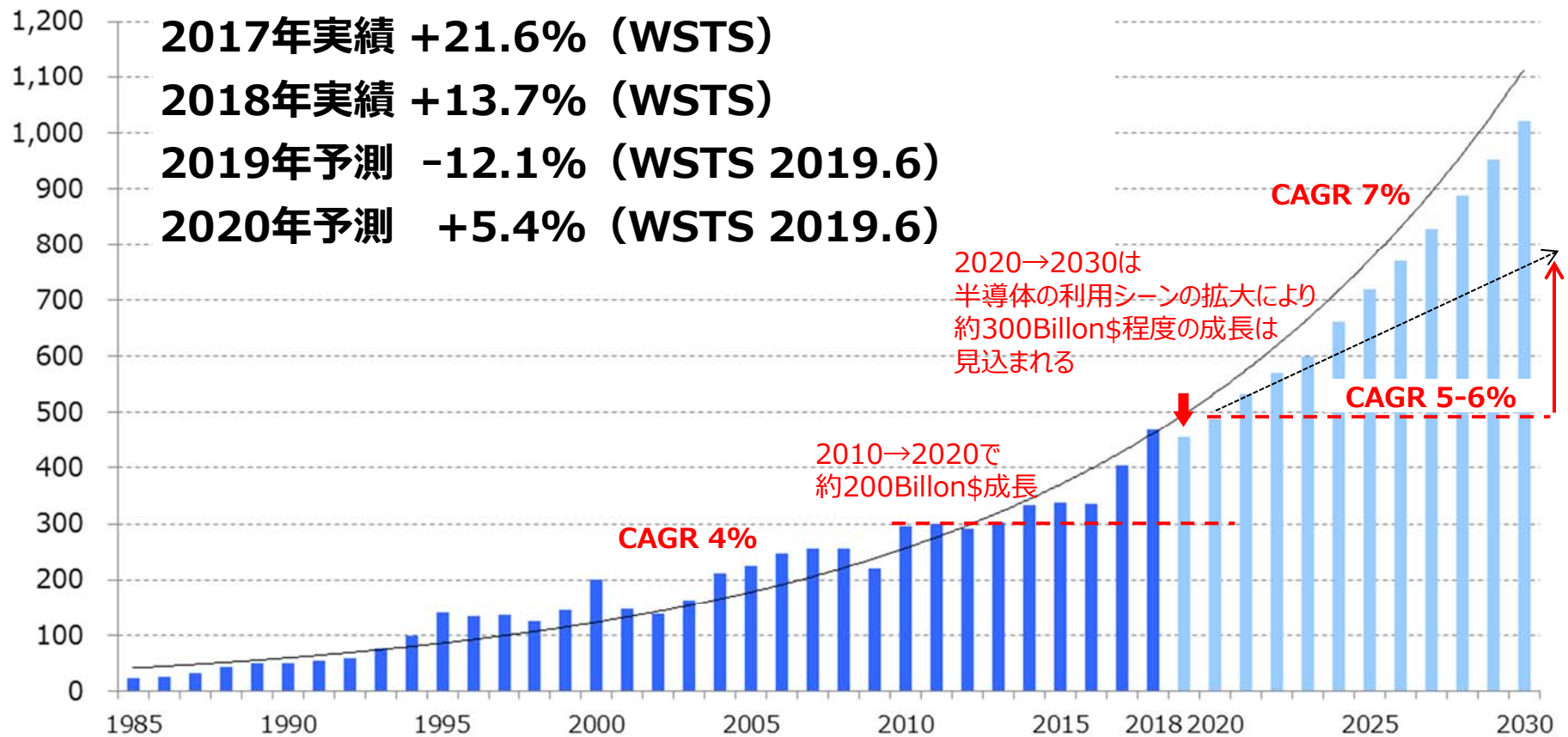


創造的かつ先進的な製品/サービスを通して、顧客製品の競争力を高め、人類文明、社会に貢献する

●今後10年で1.5倍～2倍に拡大見込み

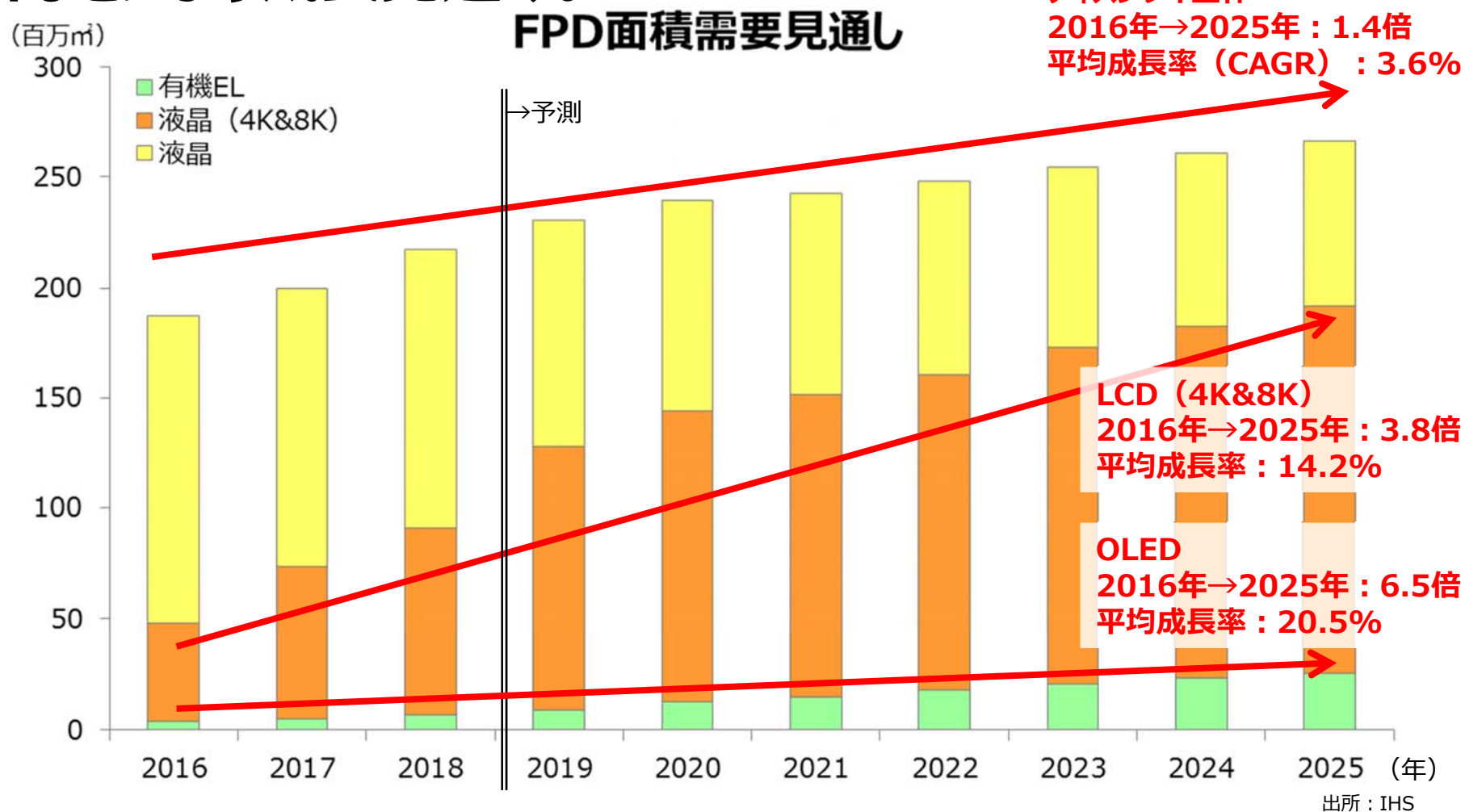
世界半導体売上高

(Billion USD)



出所：WSTS、富士キメラ総研より当社作成 (予測)

- 中国におけるFPD生産能力拡大、大型ディスプレイの需要増などにより成長見込み。



市場ニーズ

- ✓日常生活の中で電子デバイスの使用の裾野が急拡大（5G、ビッグデータ、AI、IoT、EV、etc）
- ✓デバイスの微細化・高機能化の進展とともに、高純度・高機能の機能性材料が必要性拡大

お客様の要望

- ✓電子材料の高純度化要望が加速
- ✓少ロットかつ生産難易度が高いため、対応可能な企業が限定

需要に対する課題

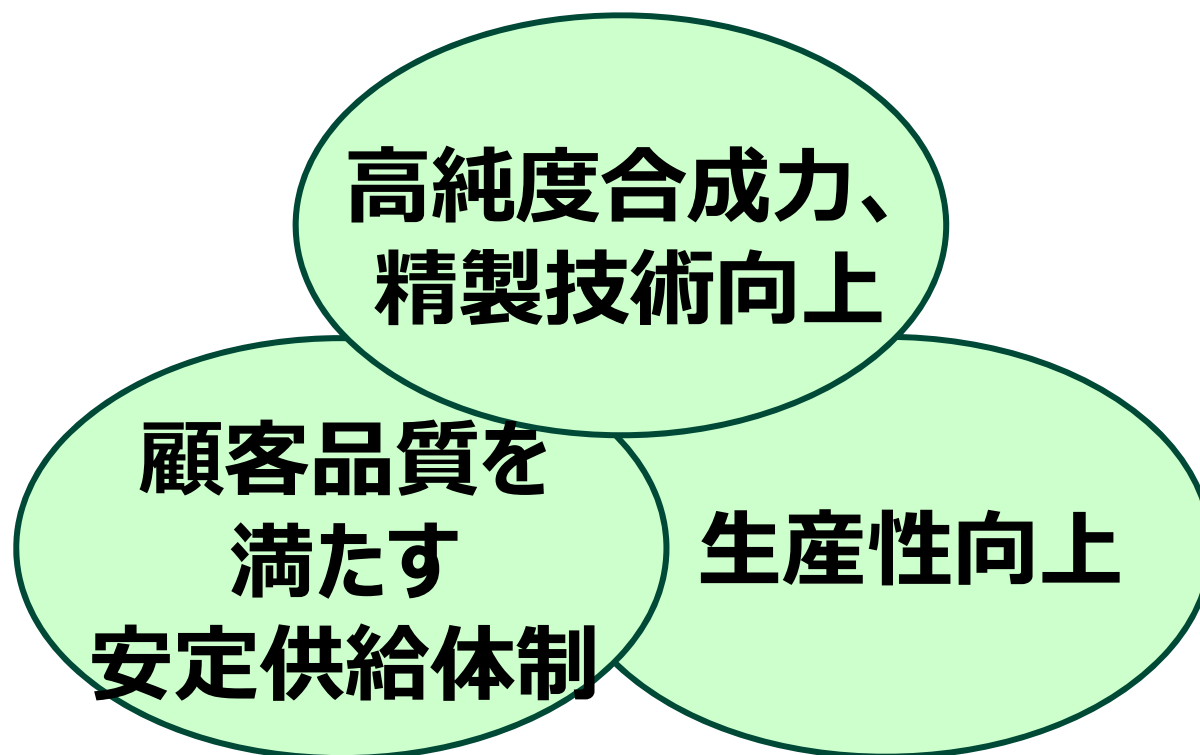
- ✓蒸留70年、感光材40年の経験を活かし、顧客品質を満たす供給の実現

施策

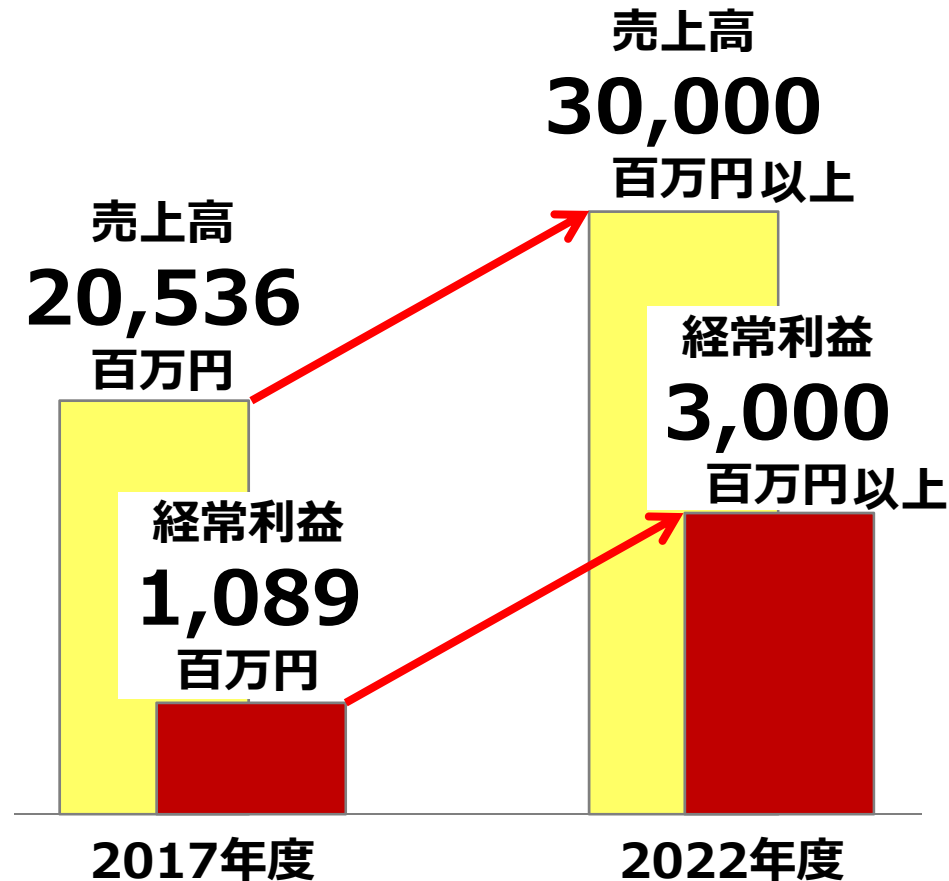
- さらなる高純度化技術の開発
- 生産能力の確保
- 生産性の向上

■ 「TGC300」のビジョン

顧客課題、技術課題一つ一つを
真摯に独創的な視点で解決し、
超高品質・生産性で世界No.1ダントツ企業となる。



売上高・経常利益



経常利益率：

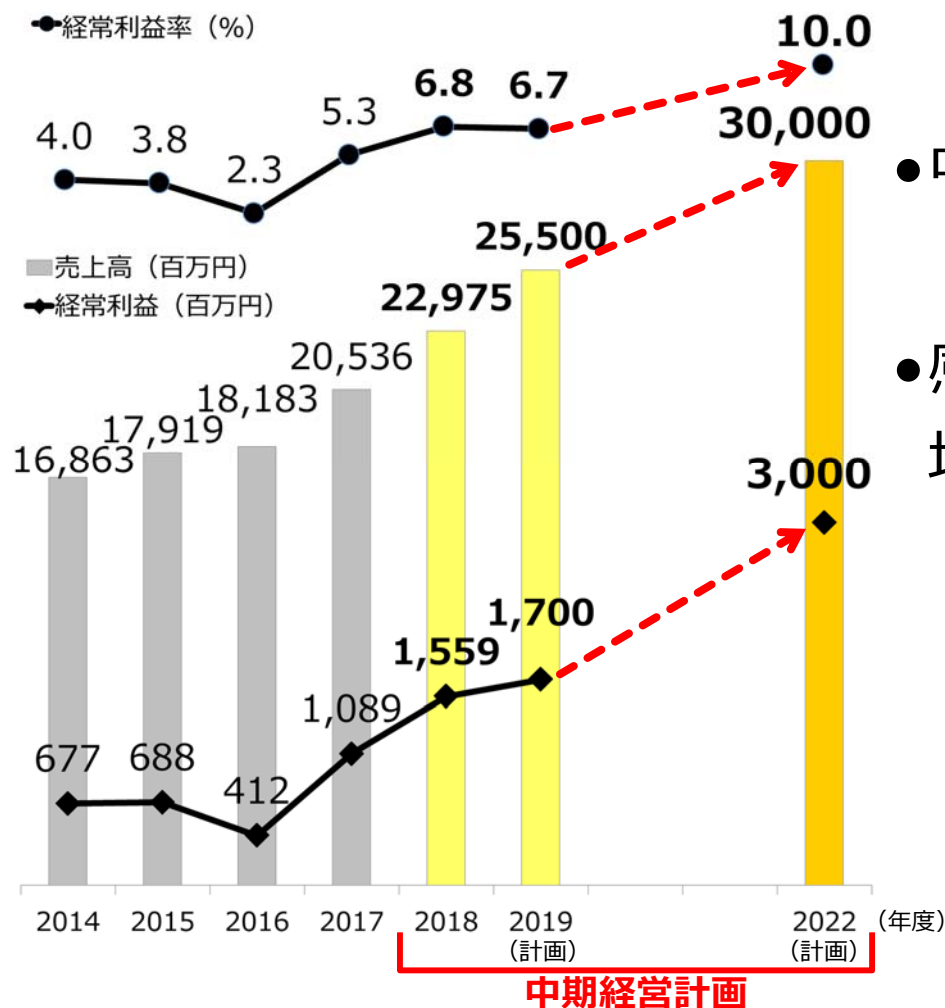
2017年度
5.3%

2022年度
10%以上

設備投資額：120億円

(戦略投資の中期経営計画期間累計)

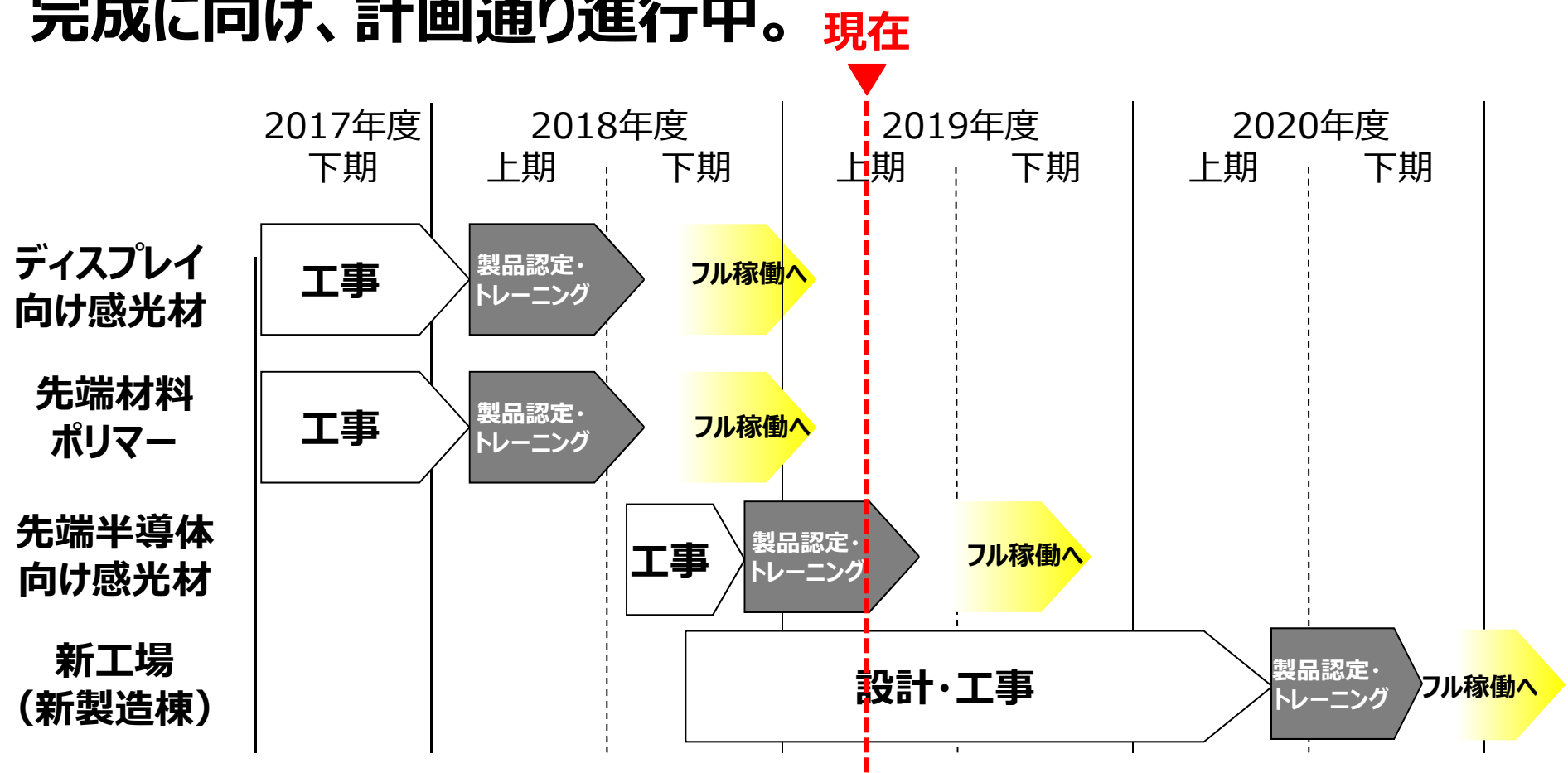
●「TGC300」の達成に向けて、計画通り順調に進捗。



- 中計1年目は、計画を超過。
(売上高+2%、経常利益+16%)
- 感光材の供給増加に向けて、設備
増強工事も計画通り進行中。
 - ✓ 既存設備の増強→完了
 - ✓ 新製造棟→2020年度夏頃
完成予定

感光材の生産能力増強

- 継続的な需要増への対応として、感光材設備を能力増強。
- 既存設備の増強は完了。新製造棟も2020年度夏頃の完成に向け、計画通り進行中。



感光材既存設備の能力増強工事が完了

- 先端世代半導体向け感光材 (PAG) の設備増強工事が2019年2月に完了。
- 顧客認定を経て、2019年度下期から製品製造・出荷を開始予定。

2019年5月8日付「化学工業日報」3面

東洋合成

感光材の供給体制強化

先端半導体向け増設完了

東洋合成工業は先端半導体向け感光材材料の供給体制を強化する。感光材主力生産拠点の千葉工場（千葉県東庄町）を進めてきた増強工事が完了。4月から稼働した。投資額は約14億円で、これにより感光材の生産能力は3割以上拡大する。同工場では2018年春にディスプレイ向け感光材を増強したほか、20年夏完成をめどに感光材新工場を建設する計画。一連の計画が完了すれば、17年時点に比べて旧世代、先端向けを含めた感光材の生産能力は約2倍に高まる見通しだ。

20年に新工場、能力2倍へ

感光性材料は半導体・ディスプレイの製造に用いられるフォトレジストの主原料で、東洋合成工業は感光材事業の主要製品として世界市場で高いシェアを有している。半導体分野では今後、IoT（モノのインターネット）

トの拡大や5G（次世代通信規格）の普及、AI（人工知能）・自動運転などの進化にともなう需要拡大が見込まれ、感光材の需要も高まる見通し。

同社は18年度からの5カ年中期経営計画で戦略投資枠120億円を設定し、電材関連を中心に積極投資する方針を掲げている。このなかで急増する需要に対応するため、3カ年計画で感光材事業に集中投資している。第1弾として千葉工場を昨



感光材第3工場の増強ラインは4月に稼働した（写真は反応設備）

増強している。先端半導体向けでは、千葉工場内に隣接している3つの感光材工場のうち一番規模が大きい感光材第3工場を16年秋にラインを増設しているが、

さらに第3弾として、

約70億円を投じて新工場「感光材第4工場」の建設を進めている。新工場は先端向け、旧世代向けに対応するマルチ設備とする計画で、20年夏の完成を目指す。18年から3度にわたる感光材の増強により、新工場稼働時点での感光材生産能力は17年比で約2倍となる見通し。

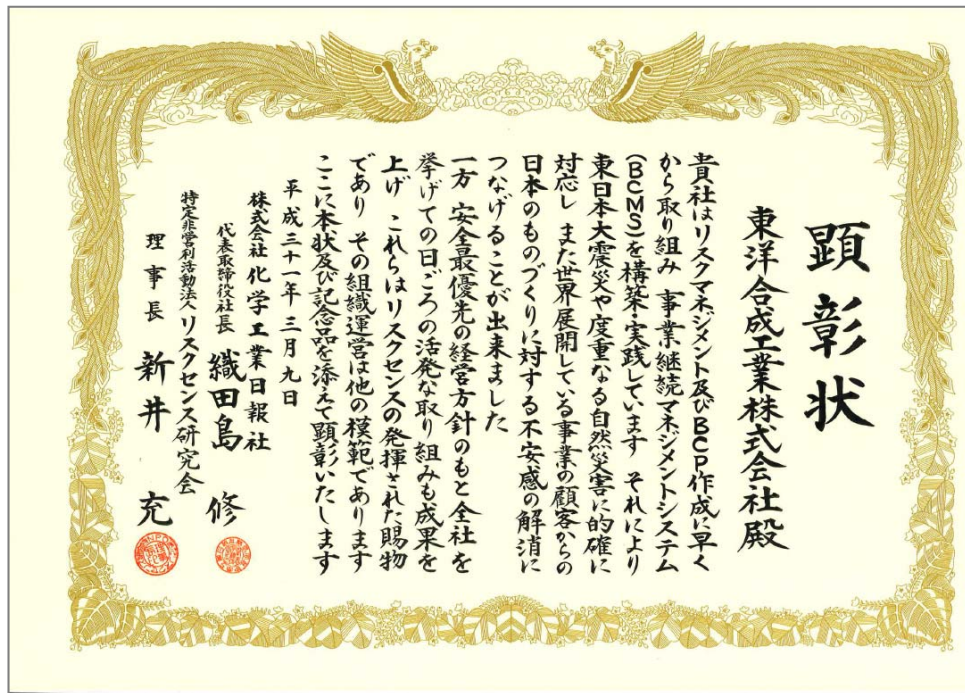
同社は感光材事業で、5線、1線プロセスなどの旧世代からARF（ラジカル）用、EUVといった先端世代まで対応したレジストポリマーやナフトキノンのボジ型感光材、また化学増幅型レジストに用いられる光酸発生剤（PAG）と幅広く展開。化成品事業ではフォトレジスト向け高純度溶剤を手にかけており、全売上高に占める電子材料関連の比率は約7割を占める。拡大する世界需要に対応し供給体制を整えるとともに、高品質・生産性の両立に重点を置いた取り組みを強めている。（児玉和弘）

感光材 新製造棟の建設場所



安全 リスクセンス顕彰を受賞

- NPOリスクセンス研究会による「リスクマネジメントの向上に寄与する」活動への顕彰制度。
- 安全最優先の経営方針、事業継続マネジメントシステム（BCMS）の構築・実践・認証取得により、世界の顧客からの日本のものづくりに対する信頼性向上への寄与を評価。



(ご参考) 2019年度 業績予想

- 生産・販売の増加による増収を見込む。
- 利益面においても、売上高の拡大に伴い増益予想。
- 想定為替レートは ¥107/\$。配当は、年間20円へ倍増。

(百万円)	2018年度 実績	2019年度 業績予想	増減額	増減率
売上高	22,975	25,500	2,525	+11%
営業利益	1,559	1,800	241	+16%
経常利益	1,567	1,700	133	+9%
当期純利益	1,171	1,600	429	+37%
1株当たり当期純利益	147.54	201.58		
1株当たり年間配当金	10.00	20.00		
為替レート (USD)	¥110/\$	¥107/\$		

今後に向けて

半導体黎明期から約半世紀、世の中のニーズに対し、技術を通して常に真摯に取り組み、それ故、独創的な高純度化技術・合成技術・製造技術を開発し、現在のポジションに至りました。

高速通信の世界的普及し、あらゆる電子機器のつながり、データはリアルタイムに処理され、さらにAI化が企図される昨今、電子材料需要は高度化/多品種化しつつ急拡大し、お客様から多くのご要望を頂いております。

このような社会変革を背景に、中期経営計画「TGC300」の目標の実現に向けて進んでまいります。ご支援いただいている、株主をはじめとするステークホルダーの皆様のご期待に、社員一丸となって、未だ見えざる未来の実現を図り、企業価値向上を通してお応えして参る所存です。

何卒、引き続きのご支援を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

独創的な視点で世界へ

Individual Development, to the global Chemical

東洋合成工業株式会社

(見通しに関する注意事項)

本資料の業績予想は、現時点において見積もられた見通しであり、これまでに入手可能な情報から得られた判断に基づいております。

従いまして、実際の業績は、様々な要因やリスクにより、この業績予想とは大きく異なる結果となる可能性があり、いかなる確約や保証を行うものではありません。